

平成 30 年度 町政執行方針

「北欧の風 道の駅とうべつ」の開業、小中一貫教育のスタートに加え、まちづくりの基盤となる立地適正化計画の策定などを盛り込んだ執行方針を申し上げます。



「産業力の強化」に係る施策の展開

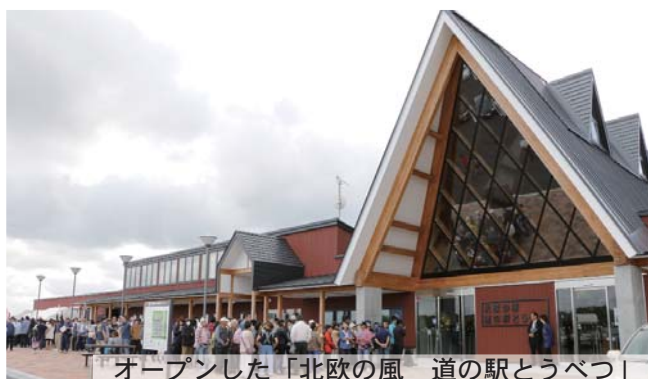
I 「食の総合拠点づくりプロジェクト」及び「商工業活性化プロジェクト」について

企業が何を求めているのか、そのニーズを的確に捉え、企業誘致を実現するため「企業立地促進条例」の見直しを大胆に行い、支援制度の強化を進めてまいります。

昨年策定した、既存企業や新規進出企業が立地する際の規制緩和につながるメリットがある「地域未来投資促進法」に基づく基本計画では地域の資源や魅力、あるいは強みを活かし、地域経済を牽引する事業者の創出、地域付加価値の増加を図り「稼ぐ力の向上」を目指します。

II 「当別町農業 10 年ビジョン推進プロジェクト」について

道の駅の開業により、「作った物を売る」から「売れる物を作る」という意識改革が醸成されることで、生産性向上と高付加価値化につながっていくことから、「当別町農業 10 年ビジョン」を強力に後押ししてくれるものと期待しています。



オープンした「北欧の風 道の駅とうべつ」

III 「当別町道の駅プロジェクト」について

これからが本当の道の駅のスタートであり、道の駅の管理運営主体である『株式会社 to be』にとっても、地域商社機能を発揮する年でもあります。

道の駅を起点にさらなる町の産業力強化を実現すべく努めてまいります。

「エネルギー地域分散型都市の形成」に係る施策の展開

I 再生可能エネルギー活用について

「太陽光発電所の設置・誘致」、「道の駅への地中熱・雪冷熱の導入」、「木質ペレットの公共施設での活用および実証事業」に加え、「木質バイオマスエネルギー」の事業化を促進するため、林道整備を拡充するとともに、木質バイオマス設備の具体的な導入計画を策定し、公共施設など町内での木質バイオマス活用につながるロードマップを作成します。



蕨岱に設置された日通商事(株)メガソーラー

「まちに人を呼び込む『定住・交流』の促進」に係る施策の展開

I 「定住人口増加の促進について」

「駅周辺再開発プロジェクト」および「当別町版CRCプロジェクト」の事業化に向けて、石狩当別駅および石狩太美駅周辺に医療・福祉・商業等の都市機能や居住機能を立地誘導し、中心市街地の活性化を図り、定住人口増加につなげるため、「立地適正化計画」の平成31年度中の策定を目指します。

II 「公共交通活性化プロジェクト」について

「西当別道の駅線」の分析や、デマンド方式の拡充など、誰もが使いやすく持続可能な公共交通の構築に向けた検討を進めてまいります。

III 「移住促進プロジェクト」について

住民票を異動した新入学生に対し「当別町共通商品券」を配付し、新生活スタートの応援事業を実施します。

一方、不足している学生寮やアパートの新築が不可欠であり、町内企業やディベロッパーへの働きかけは、これまで通り継続してまいります。

次に、交流人口の促進についてですが、道の駅と町内観光施設、飲食店などを結びつける取り組みを模索してまいります。当別ダムでの観光スポットづくりや、当別町開町の歴史・文化に触れる施設づくり、お祭りやイベントの拡大など、来町者の周遊を醸し出すような取り組みが必要であると考えています。

IV 「災害に強いまちづくりプロジェクト」について

災害時の対応や、行政の業務継続を考えると、役場庁舎の建て替えの重要度は、非常に高いと考えております。

雪害に係る除排雪対策については、生活道路の排雪に係る町民負担を新年度から廃止いたします。



排雪作業の様子

「未来を担う子どもの育成と町民が幸せに暮らせる社会の形成」に係る施策の展開

I 「小中一貫教育推進プロジェクト」について

小中一貫教育の基本理念をフルに活かすために必要な「一体型小中一貫校」の新設に向けて作業を進めてまいります。

II 「子育て世帯応援プロジェクト」について

ふとみ保育所の民営化および認定こども園への移行を進めてまいります。

一貫性のある幼・小・中、さらに高校・大学までの教育環境づくりを目指してまいりたいと考えます。

阿蘇公園に町民ニーズを踏まえた大型コンビネーション遊具を新設し、子どもが遊び、学ぶ場としての環境整備と利用の増進に努めてまいります。

III 「地域福祉推進プロジェクト」について

堀江病院の閉院に伴い、現在、新年度以降の町内医療体制の見直しを行っているところです。

日曜日の日中の診療は、町内5つの医療機関が担当し、夜間の救急医療については、「江別市夜間急病センター」を利用させていただくことになりました。

札幌市の「救急安心センターさっぽろ」に加入し、24時間365日対応の看護師による救急医療相談が受けられることとなります。

入院を要する治療については、あいの里にある北海道医療大学病院が、町内医院との連携を強化し、入院患者の受け入れを了承してくれました。



北海道医療大学病院

今後の積極的な事業展開のためにも、これまでの財政健全化は、引き続き進めてまいります。

私が一貫して掲げている産業力・稼働力を強化することにより財政基盤を整え、教育・福祉の充実を図り、災害に強いまちづくりを実現することで、定住人口・交流人口の増加に挑戦したいと考えます。